

実践を集積し理論化、学問体系として構築



幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の  
保健室に備えておきたい待望の1冊、ついに書籍化！

# 健康相談活動学

— 実践から理論、そして学問へ —

【編集】一般社団法人 日本健康相談活動学会

B5判定価 4,000円 ※当法人は免税事業者です。早期特別価格にて予約あり 予約はこちらから→



<執筆者一覧 ※五十音順・2023年3月1日現在・56名>

青木 真知子(入間市立扇小学校・養護教諭) 朝倉 隆司(東京学芸大学・名誉教授) 芦川 恵美(飯能市立原市場中学校・教頭)  
東 真理子(足立区立弘道第一小学校・主任養護教諭) 荒川 雅子(東京学芸大学芸術・スポーツ科学系養護教育講座・講師)  
池添 志乃(高知県立大学看護学部・教授) 今野 洋子(北翔大学教育文化学部・教授) 岩崎 和子(関西福祉科学大学・専任講師)  
鶴澤 京子(千葉県立長生高等学校・主幹教諭) 遠藤 伸子(女子栄養大学・教授) 大迫 実桜(戸田市立喜沢小学校・養護教諭)  
大西 次郎(大阪公立大学大学院生活科学研究科・教授) 大沼 久美子(女子栄養大学・教授) 小川 真由子(皇學館大学・准教授)  
沖津 奈緒(姫路大学教育学部こども未来学科非常勤講師・元福島県公立学校養護教諭) 籠谷 恵(東海大学医学部・准教授)  
加藤 晃子(学校法人滝学園滝中学校滝高等学校・養護教諭) 鎌塚 優子(静岡大学教育学部・教授)  
河田 史宝(元金沢大学人間社会研究域・教授) 菊池 美奈子(梅花女子大学・准教授) 久保田 美穂(女子栄養大学・専任講師)



小林 央美(弘前大学大学院教育学研究科・教授) 後藤 ひとみ(愛知教育大学・名誉教授) 齋藤 千景(埼玉大学教育学部・准教授)  
齊藤 理砂子(淑徳大学 総合福祉学部・教授) 酒井 都仁子(千葉市立幸町小学校・養護教諭)  
作田 亮一(獨協医科大学特任教授・子どものこころ診療センター長) 佐久間 浩美(了徳寺大学・准教授) 佐々木 司(東京大学大学院教育学研究科・教授)  
佐藤 倫子(札幌市立日新小学校・養護教諭) 澤村 文香(埼玉県教育局県立学校部保健体育課健康教育学校安全担当・指導主事)  
下川 和洋(特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所理事・女子栄養大学非常勤講師) 鈴木 裕子(国士館大学文学部・教授)  
瀬口 久美代(熊本大学・非常勤講師) 高田 恵美子(畿央大学教育学部現代教育学科・教授) 出口 奈緒子(静岡大学・准教授)  
徳山 美智子(元大阪女子短期大学・教授) 外山 恵子(愛知県立日進西高等学校・教頭) 中村 直美(東京家政大学人文学心理カウンセリング学科・准教授)  
西岡 かおり(四国大学・教授) 服部 祥子(大阪人間科学大学・名誉教授) 平川 俊功(東京家政大学・教授) 深田 耕一郎(女子栄養大学・准教授) 星  
埜 京子(葛飾区立原田小学校・校長) 松浦 正一(帝京平成大学健康メディカル学部心理学科・教授) 三村 由香里(岡山大学教育学域・教授)  
三木 とみ子(女子栄養大学・名誉教授) 道上 恵美子(埼玉県立草加東高等学校・養護教諭) 三森 寧子(千葉大学教育学部・准教授)  
南川 和宣(岡山大学学術研究院法務学域・教授) 宮本 香代子(安田女子大学教育学部児童教育学科・教授) 村越 真(静岡大学教育学部・教授)  
畔柳 まゆみ(山形大学地域教育文化学部・准教授) 山口 創(桜美林大学・教授) 山城 綾子(東京都多摩市立和田中学校・主任養護教諭)  
力丸 真智子(志木市立志木中学校・養護教諭)

## はじめにより

日本健康相談活動学会は、平成17年2月26日に設立しました。  
設立時の趣意書には、「今を生きようとする子供たちの心や体の健康課題に対応する養護教諭の実践と理論との融合を図り、教育学として教育現場に還元すること、健康相談活動の充実と発展を通して子供たちの自己実現に寄与すること、実践や研究の成果を発表・討論し相互の研究交流を図り、情報を共有するステージとなること」との記載があり、科学的根拠に基づいた健康相談活動学を目指しているものと考えます。以後、本学会の学会誌においては多くの論文を集積し、学術的基盤を培っています。

令和2年(2020年)に「健康相談活動学」構築のためのワーキング委員会を立ち上げ、「健康相談活動の歴史的変遷」及び「健康相談活動の実践研究」等から実践と理論の融合を図り、「健康相談活動学」の発刊に取りかかりました。  
「健康相談活動学」がその対象である未来を担う子供のよりよい成長発達に寄与するものであることを信じ発刊するものです。

一般社団法人 日本健康相談活動学会

# 目次

## はじめに

### ■序章 学問構築の目的とその意義

### ■第1章 学問としての健康相談活動

- ・健康相談活動の学問の構築にあたっての必要要件—杉浦理論から—
- ・学会としての日本健康相談活動学会設立の経緯
- ・健康相談活動の創設(誕生)の経緯と沿革
- ・学校保健法から学校保健安全法へ—健康相談活動・健康相談・養護教諭の行う健康相談の用語解釈—
- ・「学校における健康相談」—(健康教室増刊, 1968年)と「健康相談活動」の誕生
- ・健康相談・健康相談活動の原理・哲学
- ・健康相談活動の対象
- ・健康相談活動の近接領域・諸理論から見た子供

### ■第2章「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」

- ・健康相談活動の基本構造
- ・健康相談活動のプロセスと評価
- ・健康相談活動における倫理・個人情報保護
- ・子どもの疾病理解と健康相談活動
- ・ヘルスアセスメント
- ・健康相談活動カウンセリング論
- ・保健室機能論
- ・保健室登校支援論
- ・多職種・多機関連携論
- ・オンライン健康相談技術
- ・健康相談活動評価・記録技術
- ・学校種別支援論

- ・日常・危機対応ケア論
- ・事象別対応論
- ・保護者ケア論
- ・心理テスト等の種類と技術

### ■第3章 健康相談活動に求められる資質・能力(場と内容)

- ・健康相談活動実践に必要な資質能力及び養護教諭養成カリキュラムにおける健康相談活動、シラバス
- ・養護教諭育成指標と健康相談活動・健康相談の関連及び研修との関連
- ・健康相談研修プログラム例
- ・子ども健康相談士の創設—健康相談活動の資質能力の可視化—
- ・現代的健康課題に対応するためのこれからの健康相談活動学
- ・今後、科学的根拠が必要とされる研究・倫理審査の課題

### ■資料

健康相談活動学の理論的背景にある学術論文

## ◆内容紹介(一部抜粋)

◆本学会顧問であった、故杉浦守邦氏は、本学会誌第1巻「日本健康相談活動学会に期待する」において、「勇気ある提唱者が学会を発足されたことに喜びたい。しかし、健康相談活動が養護教諭の役割であることが強調されて日が浅いため、学問的裏付けが不十分なことはいがめない。これをそのまま放置して置くならせっかく咲き始めた花も咲かずに萎れてしまう。「健康相談活動学」が独立した学問として建設されること期待したい」と述べている。それ以来、学問構築は本学会の責務でもあったと考えていた。

◆いじめ・不登校、貧困、虐待、性暴力、ヤングケアラー、外国にルーツがある子供たちへの支援、医療的ケアや特別な支援を要する子供、自然災害・人為災害、感染症等による不安、子供の自殺者数の増加などは深刻である。子供たちの多くは、心の健康問題を何らかの身体的不調や行動として表出していることが指摘されており、「体から心にふれる」養護教諭の健康相談活動に一層の期待が寄せられている。

◆「学問構築」とは、学問の創造であり、新たな知識の発見・創造である。学問とは、学び問うこと、「一定の理論に基づいて体系化された知識と方法」という意味である。

◆福沢諭吉は、「学問のすすめ」のなかで、「学問という語は意味が広く、抽象的・具体的両方の意味がある。心学(心理学の意)は形の無い抽象的な学問である。天文学は有形の具体的な学問である。しかしどちらにしろ、その目的はみな、知識・見聞を広め、ものの道理を理解し人間としての責任を自覚することにある、真理の探究は、常に「懐疑」からはじまる。疑うところに真理は生まれる。何を信じ、何を疑うか選択する力が必要なのである。学問とはつまるところ、この判断力を養うことにある。判断力を養うのは学問しかない。